

## 児童養護施設職員のアングァーコントロールの重要性

高田 晃

共楽養育園安全委員会委員長 宇部フロンティア大学大学院

児童養護施設職員は子どもたちの健やかな成長を促すために、日々の生活場面で子どもに応じた指導援助を行っている。その関わりが子どもたちの成長促進的に機能するためには、お互いの信頼関係を基盤としたものでなくてはならず、その安心安全な関係性の中で子どもたちは心身共に成長していく。特に施設入所までに心の傷つきを体験してきた子どもたちの情緒的混乱は大きく、一人の職員だけで対応することには限界があり、組織全体の安心安全感に抱えられ（ホールディング）、繰り返される適切な情動調律を通してその傷つきを癒し自分にあった人間関係や社会性を再構築していくことが可能となる。

成長過程にある子どもたちはさまざまな感情を職員に投げかけてくるが、その関わりは決して親和的なものばかりではない。人生において心理的に一番の嵐といわれる思春期の子どもたちにおいては、第2の自我の芽生えとともに自らのアイデンティティの獲得に向けさまざま試行錯誤が繰り返される。その際の振る舞いや自己主張は、大人として施設職員として是認しがたい言動である場合も多々見られ、職員としては指導的な関わりを行うことになる。この職員たちの指導的関わりは、第2反抗期といわれるように素直に受け入れられることは少なく、ややもすると対立的なやり取りになることも多い。

特に被虐待の環境下で育ってきた子どもたちは、相手との安定した関わりを築くことが難しいことがしばしばである。その攻撃的で不適切な表現に対して、職員の胸中には怒りや戸惑い、不安や恐怖などネガティブな感情が生じるが、職員は自らの感情を抑制し冷静に対応しなくてはならない。感情労働（A.ホックシールド）といわれる所以である。

怒りは自分が大切にしているものを脅かされたり（脅かされそうになったり）したときにわいてくる感情でそれ自体に問題はないが、表現の仕方（頻度、程度、持続等）によっては不適切といわざるを得ない言動もある。アングァーコントロールといえ、怒りの表現方法や対処法略に力点を置かれるが、それに加え怒りのメカニズムを理解し怒りの背景に思いをめぐらすことも必要である。

それぞれが大切にしているものとして、職員の場合は個人の専門性やプライド、施設のルールや安全性などさまざまと思われるが、それを自己洞察し子どもたちに受け入れられるような方法で表現することが求められる。このように職員一人ひとりがアングァーコントロールに心掛けていくことは、職員の怒りにとどまらず子どもたちの怒りの背景にある思いに目を向けることも可能になり、その怒りの源となっている思いを発散させ共有していくことで、子どもたちのアングァーコントロールにもつながると考えている。

さらに施設全体でアングァーマネジメントに取り組み、怒りの充満しない職場環境（子どもたちにとっては生活環境）に心掛けることは、職員のメンタルヘルスに加え、何よりも子どもたちの健やかな成長に寄与するものである。